

会報

◇奈良大学史学会総会

六月八日(土)、C棟一〇二教室において、第十四回奈良大学史学会総会をおこなった。一九九五年度の決算・会計監査報告及び事業報告をおこない、ついで一九九六年度の役員人事案・事業計画案とこれに伴う予算案を提出し、それぞれ原案どおり承認された。

一九九六年度の役員は次の通り。

▽会長

藤井 學

▽副会長

守山 記生

▽教員委員

(監査)

水野柳太郎

菅野 正

(編集)

北村 麻子

(庶務・会計)

明石 岩雄

(庶務・交換)

森田 憲司

▽学生委員

(代表)

花沢 一秀

(副代表)

佐藤 嘉亮

(総務・渉外局長)

西澤 敏昭

(広報局長)

上田 英志

(編集局長)

生田 忠士

(書記局長)

加藤 克郎

(四回生委員)

飯森 康弘 崎原 盛俊

(三回生委員)

秋山 亮 池内 幸介 帯金 鈴子

(二回生委員)

菅原 大輔 竹内 誠 田中 康大

(一回生委員)

山下 聡美 羽賀 由佳 藤原 夏来

(中村 光恵)

西田クミ子 吉田 亮三

(安本 稔行)

山本 和幸 石田 俊一 大見 剛彦

(久山 良子)

福島志津代 高倉 啓輔 田中 元浩

(豊嶋 睦)

戸塚 裕介 鳥山 剛 堀 美由紀

(水原 理絵)

森本 博史 中野由美子

(一回生委員)

綾 啓子 飯間 俊行 生駒 智

(岡本有希子)

梶谷 泰志 勝田 浩章 川上 裕司

(岡崎 雅之)

川野 哲 阪部 由記 鳥袋 静佳

(杉浦 茜)

高橋 秀行 都築 隆人 土屋 裕美

(東條 弘周)

中内 百恵 長塚 泰幸 野村威都子

林 勇樹 福山 麻衣 藤田由美子 文 彰浩
古市 一志 本郷 統章 道田 悦康 三好 友紀
森田 稔 湯本 可奈 吉村 文克 吉用 直江
米田 雅代 依光 譲治 和田 寛樹

◇特別講義

六月八日(土)、奈良大学史学会総会に引き続き、奈良大学文学部史学科・奈良大学史学会共催の特別講義がおこなわれた。講師・演題は次の通り。

奈良女子大学教授 村田修三氏

「中世大和の城と社会」

京都大学教授 服部良久氏

「ドイツ連邦制度の中世における起源」

◇現地見学会

本年度の春期現地見学会は、六月二日(日)に二条城を訪ねた。その後、国立博物館コース・古代史コース・中世史コースの三班に分かれ、自分の好みの京都を楽しんだ。

秋期現地見学会では、十二月一日(日)に唐招提寺・兼師寺、そしてさらに足を延ばして大和郡山城を巡った。

両見学会とも充実した一日で、大学生活の素晴らしい思い出になる有意義な体験ができた。

◇定期講習会

本年度の前期定期講習会は、「日朝関係の歴史」と題して、時代ごとにテーマを設け、学生委員の発表と質疑応答という形式でおこなった。

後期の定期講習会では、アイヌについて様々な角度から検証した。

年々この会の質は向上しており、今年も難しいテーマをうまく仕上げることができた。また、今年はテーマが民族問題ということで共通しており、今日の民族紛争などを考えさせられる興味深いものであった。

◇卒論中間報告会

十一月九日(土)、十六日(土)の両日、第十三回卒論中間報告会が、C棟二〇一号室においておこなわれた。本年度の報告者と題名は次のとおりである。

〇十一月九日

小西 茂之「豊臣政権下における利休の政治的役割について」

永野 勝章「清末中央官制改革について」

松田 晃典「レコンキスタについて」

川島 一見「フェニキア人の植民市建設について」

○十一月十六日

南 友博「功封と功田の一考察」

崎原 盛俊「間切公事帳」にみる近世の琉球王府と村落」

仁木 信行「日本に於ける在日外国人問題―愛知県に於ける指紋捺捺問題について―」

寺崎 明子「隋代における代表的官僚の動向」

菅原 信道「ブラジルの日本宗教」

◇「史学会会報」等の発行

「史学会会報」を発行し、行事案内、活動の普及、歴史関連の情報提供をおこなった。また例年に引き続き、一回生が講読を選択する際の参考に「講読紹介」、小冊子「歴史学への扉」を発行した。

◇会員動向

○堀内一徳氏は、十七年の長きにわたって史学科の西洋古代史を担当し、また一九九三年以降大学院文化財史料学専攻教授を兼任してこられたが、本年三月末をもって定年退職された。

○北村麻子氏は、本年四月史学科に着任された。堀内一徳氏の後任として、西洋古代史を担当される。

○青木芳夫氏（西洋近現代史担当）は、国立民族学博物館

の共同研究「ラテンアメリカにおけるメスティサへの研究」に共同研究員として参加しておられる。

○守山記生氏（西洋中近世史担当）は、平成八年度文部省科学研究費補助金（基盤研究C）の交付を受けた。研究課題は、「フランドル伯の領域君主領の形成」である。

○水野柳太郎氏（日本古代史担当）は、十一月六日に愛知県教育表彰を受けられた。受賞理由は文化功労で、多年愛知県文化財審議委員を勤め、文化財保護に貢献したことによる。

◇第八回奈良大学史学科中国研修旅行

奈良大学文学部史学科では、恒例の中国研修旅行を三月におこなった。引率は、堀内一徳、森田憲司の二教員で、十二名の学生諸君の参加をみた。日程は、次のとおり。

三月四日 関西空港から上海へ。上海泊。

三月五日 上海市嘉定県（孔子廟、秋霞圃、法華塔）、南

翔鎮（古猗園）参観の後、咸陽へ。咸陽泊。

三月六日 咸陽（乾陵、永泰公主墓、茂陵、霍去病墓）か

ら、西安へ。西安泊。

三月七日 西安（秦始皇帝陵兵馬俑博物館、華清池、八仙庵、碑林、城壁、鼓樓、清真寺）。西安泊。

三月八日 西安（大雁塔、陝西省歴史博物館）から、北京へ。北京泊。

三月九日 北京（十三陵墓道、長陵、長城、居庸関）。北京泊。

三月一〇日 北京（故宫、歴史博物館琉璃廠）。北京泊。
三月一日 北京から大阪へ。

平成七年度史学科卒業論文題目

〔日本史〕

光仁・桓武朝の仏教政策

浅見 薫

固関について

稲葉 知子

聖徳太子信仰について

猪井 里佳

大安寺と元興寺の平城移建について

岡田 有司

東大寺の創建と大和国分寺

金田 秀海

天平期における日羅外交

川西 学

私度僧の一考察

小成田 涼子

御霊会について

小林 理恵

授刀舎人考

五谷 義一

藤原氏伝世の封戸について

三光 淳治

藤原氏の政治勢力について
蝦夷の反乱の性格について
奈良時代の立太子
律令の太政官制の成立
南海道における駅路の変遷について
― 駅制の展開と南海道の駅路変動を中心に ―
五百枝王について
衛府制度について
奈良時代の大学寮
大化改新の評価について
― 食封について ―
律令体制下における僧尼統制
知太政官事の一考察
平安時代の地方行政について
健児について

☆ ☆ ☆

鎌倉期南都西大寺流の信仰と社会事業活動
叡尊の布教活動について
― 非人救済活動を中心に ―
戦国期における別所氏の台頭とその在地支配について

高山 周治
苫本 貴洋
中野 正裕
中村 宜士
野口 達也
花田 芳美
藤本 康子
前田 周子
美馬 季世子
宮下 卓也
宮下 浩行
村松 敏弘
吉田 敏明

乾 圭子
上田 実花

甲斐武田氏の滅亡について

江良 朝香

懷良親王の太宰府における西国支配について

森田 美和

足利義持の対明政策についての一考察

大野 恵多

九州北中部を中心に

岡田真希子

越前朝倉政権下における商品流通について

矢尾 崇

―伝統的外交観と現実の外交―

一条氏莊園回復について

尾崎 大地

―土佐一条氏を中心に―

山科家と家司大沢氏の関係

佐野 修平

本能寺の変を中心とした宮廷貴族の動向について

安福 麻紀

―室町末期の公家の家計―

鎌倉期における伊勢信仰と東国武士

須田 織江

―光秀の行動の真相を中心に―

八十住英樹

織田信忠の武田攻めについての軍事行動について

高木 正裕

讃岐の豪族秋山氏の盛衰とその信仰

湯口 雅文

北条早雲の分国形成について

竹村 弘美

☆ ☆ ☆

綿引 博

―その生涯と軌跡―

鎌倉期の白拍子について

谷 淳子

近世後期におけるかわら版と庶民文化

池田あゆ子

鎌倉期における臨終正念の一考察

多波見朋久

近世中期における赤穂事件をめぐる論争の史的考察

今井 洋介

北九州支配をめぐる足利直冬と少弐頼尚の構想について

―観心擾乱を中心に―

中村 淳一

江戸時代初期における「かぶき者」の動向

潮 ひとみ

駿河今川氏婚姻の史的分析

橋本 忍

近世城和領における無足人の考察

宇宿 哲郎

室町中期における駿河守護今川氏について

増岡 充子

天保の飢饉における上方の都市と農村

大場 兆司

初期六波羅探題の活動について

溝部 陽子

近世の大和における村落講の役割

奥田 英毅

近世都市における廃棄物処理について

梶谷 正樹

近世における街道交通の発達と名産・名物 小出 一彰

近世吉野における林業経営の展開 佐竹 健作

近世都市の発達と名所観・自然観の変容 島田 真潮

十八世紀末における経世家・本多利明の北辺開発の思想

―北辺に求める役割を中心に― 竹下 覚

幕末・維新期の民衆と政治意識 田中 稔人

米沢藩における藩政改革について 當銘 敦

―鷹山の治世期を中心に―

近世中期以降の江戸の人足寄場と無宿人対策 中野あい子

近世淀川における舟運について 葉草 幸司

幕末における坂本龍馬の思想と行動について 橋本 香織

江戸幕府前期における宗教統制について 原 英史

―家康期を中心に―

近世大坂における青物市場について 松田ゆかり

近世奈良町の発展と観光 山上 美樹

近世今井町の町内構造と生活 山口 寿江

江戸後期における大塩平八郎の乱の意義 山田 弘

江戸時代中期以降における捨子について 山田 真紀

近世中期以降における大坂の新天地開発と都市圏の拡張 山本 陽子

織豊政権下における茶湯の役割 吉田 直美

近世中期以降の庶民の旅としての伊勢参り 若林 陽子

☆ ☆ ☆

東南海地震・三河地震に関して 石原 昇

石橋湛山の植民地認識 一村 正也

南京大虐殺について 伊藤 伸二

昭和戦前期における京都の公害問題 大石 一博

―騒音問題を中心に―

地域社会における大正デモクラシー 鴨狩 幸子

―奈良市の普選運動と市民政社―

日本の近代教育における私学高等教育 熊野美也子

―法律系私立専門学校を中心に―

警察の民衆化と民衆の警察化 佐藤 智久

―愛知県下を中心に―

日露戦争期における社会運動について 佐野山佳美

近代日本におけるテロリズムの報道 手塚 滋人

―原敬暗殺事件について―

天皇親政体制の現出過程について 高石 和美

馬券禁止に関して 富野 啓吾

国民にとつての「ナシヨナリズム」 原田 祥史

―戦争宣伝と国民の「その気」―

教科書裁判についての一考察

三浦 康子

―第二次世界大戦に関する記述を中心に―

唐代における宦官と神策軍について

助永志穂子

近代沖縄における民衆の動向

森 美恵

―皇民化教育を中心として―

漢代の後宮

善斉 信雄

奈良県の在日朝鮮人一世と夜間中学

森本 成絵

小畑敏四郎の存在意義について

吉田 桂

―陸軍在職期を中心に―

―外戚権力の構造とその背景―

西田 ゆり

〔東洋史〕

西魏・北周に於ける豪族について

上井谷 修

―北魏末から北周に至るまでの施策を中心に―

則天武后と唐代社会

堀内 陽子

後漢時代における知識人の政治活動について

上田 周

中国の天文観測機器

山口 定則

隋の中央集権化について

内海 新

―郷里制を中心に―

漢代の辺境統治

渡邊 直子

貴族の成立と州大中正

宇土 賢次

―史料からみる河西四郡―

唐代仏教教団と給田問題

大久保朋芳

☆ ☆ ☆

―僧尼給田問題について―

八旗制から見た満州族の漢化問題

上木 輝康

宋代茶法の変遷と商人

長村美菜子

―入関前後を中心に―

献帝奉迎と後漢末期の諸勢力について

小杉 直孝

日清戦争に至る背景について

坂本 佳子

宋代の観音信仰について

佐藤 晶子

―東学と農民の立場から―

張作霖と日本の関係について

―東三省統一を中心―

義和団についての一考察

―義和団と人々の関係―

上海租界と五・三〇事件について

〔西洋史〕

新バビロニア王国

―特にネブカドネザルⅡ世とその時代について―

古典期アテネにおける女性の諸相

―女性の魂の分裂―

古代ギリシア人の植民活動

ペルシア戦争

ポンペイ出土から見るローマ絵画

エトルリアの墓に見られる美術的埋葬

ゾロアスター教

ローマ国家とポリスについて

―ローマ化による市民権の拡大―

ピラミッド造営について

―クフ王の造営における目的とそれに関わる諸問題―

古代エジプトの灌漑

西本まゆみ

野上 恒史

長谷川創史

石橋かおり

板野 七美

小鹿 朋子

勝部 敬史

鎌倉 真

小西 由季

西堂菜央子

佐々木美佳

城島 朋子

高木 美江

アマルナ宗教改革とツタンカーメン

ツタンカーメンとアマルナ時代

古代エジプトと宗教文書

古代エジプトにおける宗教信仰

ポエニ戦争

―ローマによる地中海制覇―

初期王朝時代のラガシユ

古代エジプトの遺産

ミノア文明の崩壊について

―クレタ諸宮殿の破壊の原因―

古代ローマ時代におけるカルタゴについて

古代エジプトの宗教

―来世観とその信仰を中心に―

ガイウス・ユリウス・カサエル

―ローマ共和政から帝政へ―

アレクサンドロス大王

―アレクサンドロス三世から見た東征の意義―

古代エジプトのファラオたち

アケメネス朝ペルシア皇帝ダレイオスⅠ世

―その即位までの経過―

財部久美子

田中 里佳

田中 留美

谷本 美和

徳山 栄治

橋本 静

花田 淳一

前城 静二

増田 千絵

三宅 利枝

八木祐起子

山田奈津希

山本 雅直

☆ ☆ ☆

ドイツ農民戦争について
ビザンツ帝国の展開について
フランス封建社会における城主支配領について

足立 明香
岩田 和郷

西欧中世の子供について

橋本 典子

西欧中世盛期における貴族・騎士の成立について
大石まゆみ

岡井 貞江

フランス絶対王政の繁栄と衰退
十六世紀イタリア衰退原因の考察

橋本 雅之
豆野 智美

イングランド封建王政の展開
スペイン王国の成立と発展について

宮本 守啓
吉村 美穂

イタリア中世都市国家の形成

奥村 朋美

☆ ☆ ☆

ルネサンス期イタリア都市社会について
片村真知子

ペルーにおけるキリスト教布教
アメリカ黒人運動と非暴力主義

赤松 美穂
萱沼 愛子

ドイツ宗教改革について
川口 千春

アメリカ・インディアンとゴースト・ダンス
オーストリア・ハンガリー二重帝国成立をめぐる

菊地 秀之
田上 晃

イングランド王国の展開について
武井 秀章

南米アンデス地域における地域間の交流について

田川 康隆

成立まで
ピュリタン革命
谷口 禎章

インドとイギリス
インド社会における土地所有関係の転形

坪内 丞

西欧中世における庶民の生活
田丸 慎一

近代イギリスにおける茶文化の発展
マヤ文明の崩壊について

内藤 友美
平田 満寿

中世教会堂の成立と発展
塗師村友恵

― 神聖ローマ帝国を中心に―
フランス革命の展開
萩崎 直洋

― 古典期における低地南部の崩壊とその要因―
第一次世界大戦勃発の原因について
米田 征彦

受贈雑誌及び図書（自一九九五年十一月）
（至一九九六年）

雑誌

- アカデミア(南山大学) 人文・社会科学編 第六二―四号
アジアアフリカ言語文化研究(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所) 第五〇、五一号
アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究所) 第二号
アジアフォーラム(大阪経済法科大学アジア研究所) 第二一、二三号
愛大史学(愛知大学文学部史学科) 第五号
愛知大学総合郷土研究所紀要 第四一輯
愛知大学文学論叢 第一一―輯
岩手史学研究(岩手史学会) 第七九号
天津市歴史博物館研究紀要 第三号
お茶の水史学(お茶の水女子大学読史会) 第三八号
学習院大学史料館紀要 第八号
漢学研究通訊(漢学研究中心) 第一五卷第一―三期
キリスト教史学(キリスト教史学会) 第五十号
紀尾井史学(上智大学大学院史学専攻院生会) 第一五号

京都市歴史資料館紀要 第一三号

ぐんま史料研究(群馬県立文書館) 第五、六号

研究紀要(奈良佐保女学院短期大学) 第六号

皇学館史学(皇学館大学史学会) 第一一号

神戸大学史学年報(神戸大学史学研究会) 第一一号

四天王寺国際仏教大学紀要 短期大学部 第三六号

四天王寺国際仏教大学紀要 文学部 第二八号

史苑(立教大学史学会) 第五六卷第一、二号

史学(三田史学会) 第六五卷第一―四号、第六六卷第一

号

史学論叢(別府大学史学研究会) 第二六号

史観(早稲田大学史学会) 第一三四、五冊

史泉(関西大学史学・地理学会) 第八二―四号

史艸(日本女子大学史学研究会) 第三六号

史窓(京都女子大学史学会) 第五三号

史叢(日本大学史学会) 第五四・五号

社会科学研究(中京大学社会科学研究所) 第一七卷第一

号

秋大史学(秋田大学史学会) 第四二号

就実女子大学史学論集 第十号

- 上智史学（上智大学史学会） 第四〇号
- 神女大史学（神戸女子大学史学会） 第一二、一三号
- 信大史学（信大史学会） 第二〇号
- 人文論集（静岡大学人文学部社会学科・言語文化科学研究報告） 第四六一二、四七一―号
- スペイン史研究（スペイン史学会） 第一〇号
- 住友史料館報 第二七号
- 西洋史学報（広島大学西洋史学研究会） 第二二、二三号
- 青丘学術論集（韓国文化研究振興財団） 第八集
- 聖心女子大学論叢 第八六、八七集
- ソーシアル・リサーチ（ソーシアル・リサーチ研究会） 第二一号
- 双文（群馬県立文書館） 第一三号
- 創価大学人文論集 第八号
- 総合研究（津田塾大学国際関係研究所） 第三号
- 高岡史学（高岡史学会） 第一二号
- 橘史学（京都橘女子大学歴史学会） 第一〇号
- 千葉史学（千葉歴史学会） 第二七、二八号
- 近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第六号
- 中央史学（中央史学会） 第一九号
- 中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二三・二四号
- 津田塾大学国際関係研究所報 第三〇号
- 敦賀論叢（敦賀女子短期大学） 第一〇号
- 富山県立山博物館研究紀要 第三号
- 東海史学（東海大学史学会） 第三〇号
- 東北学院大学東北文化研究所紀要 第二七号
- 東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第四五号
- 東洋史学論集（立教大学大学院文学研究科史学専攻東洋史） 第二号
- 東洋史訪（兵庫教育大学東洋史研究会） 第二号
- 東洋大学文学部紀要 第四九集 史学科篇二―号
- 栃木史学（国学院大学栃木短期大学史学会） 第十号
- 寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第四一号
- 鳴門史学（鳴門史学会） 第十号
- 南海史学（南海史学会） 第三四号
- 二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第一〇号
- 二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二六集
- 二松学舎大学論集 第三九号
- 新潟史学（新潟史学会） 第三五、三六号
- 日本研究（国際日本文化研究センター） 第一三、一四集

日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史研究室） 第

二八号

日本常民文化紀要（成城大学大学院文学研究科） 第一八

輯

日本文化研究所紀要（亜細亜大学日本文化研究所） 第二

号

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第二

四号

日本歴史研究（日本歴史研究会） 第三輯

年報中世史研究（中世史研究会） 第二一号

年報日本史叢（筑波大学歴史・人類学系） 一九九五

白山史学（白山史学会） 第三二号

花園史学（花園大学史学会） 第一六号

東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 第九、

一一—一三号

兵庫教育大学研究紀要 第一六卷第二分冊一、二

兵庫県の歴史（兵庫県史編集専門委員会） 第三二二号

弘前大学国史研究（弘前大学国史学会） 第一〇〇号

広島大学東洋史研究室報告（広島大学文学部東洋史談話会）

第一七号

福岡教育大学紀要 第四五号第二分冊 社会科学

福岡市博物館研究紀要 第五号

佛教大学総合研究所紀要 第三号

法政史学（法政大学史学会） 第四八、四九号

北大史学（北大史学会） 第三五号

三井文庫論叢 第二九号

御影史学論集（御影史学研究会） 第二一号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第二

八卷七一—二二号、第二九卷一—七号

明代史研究（明代史研究会） 第二四号

山口県史研究（山口県史編纂室） 第四号

鷹陵史学（佛教大学史学科研究室） 第二〇、二二号

横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会） 第二九卷第一、

二号、第三〇卷第一号

立正史学（立正大学史学会） 第七九号

龍谷史学（龍谷大学史学会） 第一〇五、一〇六号

歴史（東北史学会） 第八五、八六輯

歴史学論集（山梨大学教育学部史学教室） 第三四集

歴史研究（大阪府立大学） 第三四号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系） 第二四号

歴史と地理（山川出版社） 第四八二一九三号
和菓子（虎屋文庫） 第三号

図 書

アジア諸国における教科書と教育制度（学習院大学東洋文化研究所調査研究報告四三）

愛知大学中部地方産業研究所産業館収蔵資料目録Ⅰ

愛知大学博物館学芸員課程実習報告書 一九九五年度創刊

号

新しい史学概論（望田幸男他編、昭和堂）

大山崎山荘と蘭花譜（大山崎町歴史資料館）

近世大坂と知識人社会（小堀一正著、清文堂）

群馬県行政文書件名目録 第八集 明治期土木・河川編

（群馬県立文書館）

群馬県史収集複製資料目録 第三集 近世史部会収集資料

その三（群馬県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 14 甘楽郡下仁田町本宿神

戸金貴家文書一（群馬県立文書館）

志摩の漁村（牧野由朗編、愛知大学総合郷土研究所研究叢

書Ⅹ、名著出版）

志摩漁村の構造（牧野由朗著、愛知大学総合郷土研究所研究叢書Ⅹ、名著出版）

白雪の明治・大正・昭和前期（小西酒造株式会社）

成熟都市の条件（佛教大学総合研究所紀要第三号別冊）

精華町史 本文篇

相互イメージの計量的解析による日韓政治文化摩擦の考察

（学習院大学東洋文化研究所調査研究報告四二）

立山地獄説話への一試論（小松裕哉著、富山県立山博物館

調査研究報告書）

富山湾沿岸船絵馬調査報告書（富山市日本海文化研究所紀

要第九号）

富澤霊岸先生古稀記念関大西洋史論集

日本美術院百年史 第五卷、第一二卷（日本美術院）

収蔵品目録一〇 平成四年度収蔵（福岡市博物館）

東アジアにおける社会・文化構造の異化過程に関する研究

（研究代表者、足立啓二）

東アジアの村落と家族（佛教大学総合研究所編）

豊後国香々地荘三（国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概

報 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）

法律家の見た日本古代千五百年史（山中順雅著、国書刊行

会)

三井文庫所蔵史料 主要帳簿目録 (江戸本店、大坂本店等
作成分)

明末清初の社会と文化 (京都大学人文科学研究所)

柳沢家譜集 (柳沢史料集成第四卷、柳沢文庫保存会)

立正大学蔵岡垣家文書 中世編 (立正大学史学研究室)

TSUDA COLLEGE IICS Monograph Series No.1 Careers
and Commitment: Azumi's Blue-collar Women (Glenda
S.Roberts)

TSUDA COLLEGE IICS Monograph Series No.2 Change of
the Political Systems (Ukrainian Case) (Varentin
Yankusik)



編集後記

◇本号は、堀内一徳先生退職記念号です。巻頭の先生の年譜と業績目録に加えて、日東西の論文四本、書評一本のにぎやかな構成となりました。書評は、本学教員の守山記生先生の著書を、京都府立医科大学名誉教授の鯖田豊之先生が、紹介してくださったものです。流麗な御文章を御味読ください。(K)

奈良史学 第十四号

一九九六年十二月二十一日印刷
一九九六年十二月二十五日発行

奈良市山陵町一五〇〇(〒三三三)
奈良大学文学部内

発行者 奈良大学史学会

会長 藤井 學

電話(043)441-1151(代)

振替 〇〇九九〇一三一五九四九

印刷所 京都市下京区松原通菘屋町東入(〒600)
株式会社 中田プリント